

ミニコミュニティバス試行運行の運賃（案）

案1. 200円均一にする

	メリット	デメリット	デメリットへの対策
市	○実質値上げなので、財政負担が軽くなる ○平等な料金のため、新規層を取り込める可能性 ○既存バスとの競合性が低い	×実質値上げなので、利用者の不満が大きくなる（特に高齢者） ×隣接市がすべて100円均一なので苦情が出やすい	・割引制度や特別乗車券を導入する（次頁）
利用者	○事業の継続可能性が上がる	×利用者個人の負担が大きくなる（特に高齢者等）	

案2. 100円均一にする

	メリット	デメリット	デメリットへの対策
市	○隣接市との整合性が担保される ○平等な料金のため、新規層を取り込める可能性	×運賃収入が低下する ×高齢者等従来割引制度のあった層からの不満が出る ×既存バスとの競合が問題	・積極的にPR活動を行う ・増便などの検討 ・利便性を高める工夫をし、利用者増につなげる
利用者	○ワンコインなので、支払いが簡便 ○利用の心理障壁が下がる ○現くにっこの割引対象者でない場合は負担が減る	×需要増により、乗り切れないケースが増える ×メインターゲットである高齢者の負担は増える	

案3. 170円均一とする

	メリット	デメリット	デメリットへの対策
市	○現くにっこと同じ運賃なので、説明がしやすい ○収支面での現くにっことの比較がしやすい ○既存バスとの競合性が低い	×従来通りの運賃収入が見込めない（定員減により） ×釣銭対応の用意が必要 ×隣接市がすべて100円均一なので苦情が出やすい	・釣銭の問題は、ICカードの導入により解決可能
利用者	○事業の継続可能性が上がる ○混乱が少ない	×現金で払いにくい（＝お釣りが発生しやすい）	

運賃（割引・特別乗車券等）メニュー表（案）

	サービス種類	メリット	デメリット	課題
1	回数券の発行	○従来のコミバスと同等のサービスを維持できる	×発行事務の手間が増える（事業者 or 市）	・割引率の設定をどうするか
2	小人・高齢者・しょうがいしゃ割引（半額）	○従来のコミバスと同程度のサービスを維持できる	×均一料金に比べ、運賃収入が減る可能性がある	・年齢の判断基準をどうするか？（免許証や住基カードの活用 or 独自のパスを発行）

3	シルバーパス対応	○従来のコミバスと同等のサービスを維持できる	× 財政面で大きな負担増となるので、事業の継続性が著しく低下する	・バス事業者以外は補助金が受け取れない→市の財政負担増
4	乗継券（無料）の発行	○ミニコミバス同士の乗継利用者が増える ○乗り継ぎが便利になることで、ミニコミバス自体の利用者増の可能性がある	× 発行事務の手間が増える（事業者 or 市） × 乗降時間増→定時性が崩れるおそれ × 子どもや高齢者にわかりにくい × 不正利用の可能性あり	・路線ごとに事業者が異なる可能性があるので、発行方法や運賃収入精算の仕方等の連携・協力が不可欠 ・発行のための経済的及び時間的コストが増えるので、費用対効果の精査が必要 ・現くにつこへの対応をどうするかが課題 ・「当日（期間内）かつ本人限り」の徹底の問題
5	一日乗車券の発行	○全路線に乗れる乗車券を発行することで利便性が向上し、ミニコミバス利用者全体の増加が見込まれる	× 発行事務の手間が増える（事業者 or 市） × 不正利用の可能性あり	
6	定期券の発行	○リピーター確保→安定的な利用者、収入の確保 ○運転手の手間が減る	× 発行事務の手間が増える（事業者 or 市） × 不正利用の可能性あり	
7	ICカード（Suica・PASMO等）の導入	○路線バスとの乗り継ぎが容易になる→利用者増 ○バス停利用状況などの把握が容易 ○不正利用の可能性ほぼなし	× 想定している利用者層にはあまり所持者がいない可能性がある × 小人や高齢者割引などに対応できない	・導入に多大なコストがかかる（設備費、システム負担金等）
8	商店街クーポンとしての利用	○商店街とミニコミバスとの相乗効果が期待できる	× 発行事務の手間が増える（事業者 or 市） × 商店街間で不公平感が出る可能性がある	・商店街との連携・協力が不可欠